

〔一〕 次の文章を読んで、後の問に答えよ。

明治維新以降、東北にも近代化の圧力はかかりつづけ、その過程でいくつかの制度や組織は近代化した。成長をつづけた20世紀いっぱいまでの間、近代化しきれなかった制度が沢山残っている。^(注1)ガバナンスの制度も地方分権社会がうまく機能するほどにまで近代化しなかったし、土地制度も同様である。建設産業は近代化の過程で組織を巨大化させてきたが、21世紀に入ってからここまで、人口減少時代に向けて既に^(注2)ダウンサイジングが始まっていたのである。

こういったことは、もう人口減少時代に一足早く入りつづけた東北が、人口増加と都市成長とともにあった近代化の段階を超え、近代化の次の段階に入っていた、とも捉えられる。つまり、復興の遅れは、東北で既に顕在化していた、成長からダツキヤクしたスピードの遅い人口減少社会の抵抗なのである。

では、津波復興はどういう「成長しない社会」を目指していけばよいのだろうか。災害にあう前の、復興で戻るべき東北がそもそもどうい^イう社会であったかを考えてみる。

筆者は東日本大震災が起きた直後に、現地に行くことも出来なかったために、まずは東北のイメージをつかもうと、集められるだけの統計資料で議論をしていた。その時の最初の仮説は「東北は非常に貧しかったため、災害によっても二度と経済が復活することが出来ないのではないか、復興したとしても、全員が生活保護を受けるような社会になるのではないか」ということであった。それは、東京の目線から見たらあまりにも低い県民所得のデータを読んだ時の仮説であったが、それはすぐさま東北をよく知る人に否定され、さらに実際に東北に通う中であっさりといっくり返された。

確かに、都道府県の1人当たり県民所得(2009年度/内閣府発表)を見ると、トップは東京都の3907千円、岩手県は2214千円で全体の40位である。しかし見方をかえると、岩手は、東京のように年間390万円を稼いで支出するという生活ではなく、年間220万円を稼いで支出し、それでも豊かな生活を行っていきける、という地帯である。390万円と220万円の間に170万円の差は、「これだけしか稼ぐことが出来ない」という差ではなく、暮らしていく上で賃

幣を使用するかどうかの差であると理解するべきである。この差は具体的には何か。東京でも東北でも医療費や教育費はあまり変わらないと思われるので、おそらくは食費と住居費ではないだろうか。つまり東京では、食品や住居を手に入れるために貨幣がなくてはならないが、東北では食品の一部は、たとえば漁師の親戚から魚が大量に送られてくるとか、自宅の裏庭で野菜を育てているとかいったことでカバーされているし、住宅は持ち家である。

食費と住居費は分かりやすい例であるが、もう少し一般化するとすれば、つながりを持った人たちが同じ空間で長く暮らしていることよって顕在化^cしなくなったサービスや物品の費用の合計である。サービスや物品を手に入れるために貨幣を使わないですむことは、^(注3)アドバンテージなのである。170万円の差は「見えない所得」とも呼ぶべきものであり、こうした地域は貨幣の所得から見れば貧困地帯なのかもしれないが、そうではなく、見えない所得を多く持つ豊かな地域であったと認識するべきだろう。

このような社会における復興とは、「貨幣の所得」と「見えない所得」のふたつを同時に復興することである。貨幣の所得の復興とは、もともとの所得である2214千円の復活である。職場や仕事を復活することにより、これらは復活することになる。

そしてもう一つ忘れてはならないのは、残る170万円の「見えない所得^っ」の復活である。

見えない所得を象徴する食費と住居費について考えてみる。食費についてみると、仮設住宅で暮らす被災者から「生まれて初めてスーパーで魚を買った」という声を聞くことがあるが、そこを回復すること、つまり食品の調達にあたってスーパーを使わないような生活を回復することが「見えない所得」の復興である。この復興が出来ないと、被災者はただでさえ苦しいなか、つまり貨幣による所得すら十分に確保できないまま、これまで必要がなかった出費にも苦しむことになる。そこを乗り越えることが出来る人たちは限られているだろうから、福祉的な枠組みの中に落ちていってしまう人たちも少なくないことになる。

もう一つの住居費について見てみよう。筆者はグループをつくって被災者にどれほどの住居費の負担がかかるかを試算したことがある。高所移転をして新築した場合、現地にそのまま新築した場合、集落から市街地に移転してそこでアパートを

借りた場合、公営住宅に入った場合……と様々なパターンで試算をしたが、結論から言うと、どのようなパターンであっても、1つの世帯の月々の負担は2・5万円～5万円の間にとどまった。どんな選択であってもその差は小さく、その理由はそもそも土地代が東京などと比べてアンカであるため、土地取得とチンタイの差があまり出ないからである。

月々の負担から1年分の住居費を計算すると、30万円～60万円の支出となる。もともとの社会では、この金額は「見えない所得」でカバーされていたから、復興にあたって住宅をどのようなかたちであれ復興するということは、220万円よりもさらに余分に30万円～60万円を稼げる社会にしなくてはいけない、ということである。

こうした「見えない所得」がカバーしていたものに対する支出が、しばらくは東北の社会をアップカする。復興に際して必要なことは3つであり、1つ目は、仕事を回復し、貨幣による所得を回復すること。ついで、見えない所得でカバーできていたものをなるべく多く復活すること。3つ目は見えない所得がカバーできていて、貨幣を使わないと回復出来ない部分として顕在化した住居に対する支出をなるべく圧縮することである。

そして重要なことは、復興がうまくゆけば、住宅は「見えない所得」となる、ということである。現在の被災地では不動産市場が活発に動いているが、それは一時的であり、住宅が建ち切ったら転居も新築も行われず、市場があつという間に縮小する。つまり、住宅が復活しても不動産市場が形成されるわけではなく、不動産への支出を除く2214千円が交換される市場が復活するだけなのである。つまり被災地は将来的には、仕事の収穫で必要なものを少しずつ購入する、というゆっくりとした経済に戻る。土地は空間と資本とソーシャルキャピタルの関係回復のエンジンにはならず、ただ人々の生活を黙々と支えるだけのものになる。もちろんそれは、一つの安定した経済の状態であり、それこそが津波復興が目指すべき「成長しない社会」なのである。

筆者はこの状態を「非営利経済社会」と呼んではどうかと考えているが、そこにいたるまでの復興を「非営利復興」と呼ぶとして、それをどう組み立てればよいだろうか。

非営利復興は都市拡大期の復興手法である「区画整理+バラックモデル」では解くことが出来ない。なぜならば、区画整理+バラックモデルは土地を媒介として空間、ソーシャルキャピタル、資本の蓄積とその関係を復興する手法であるからだ。

東日本大震災の被災地では、これまでの近代復興と同様に区画整理事業で復興が取り組まれようとしている。しかしそもそも津波は安全な土地とそうでない土地をはっきりと区分するため、区画整理事業で多くの人に等しく土地をあたえることが難しい。たとえ防潮堤が整備されたとしても被災地の土地の市場性があることなく、土地が活発に市場で取引されたり、その土地を担保に金融機関が融資したり、ということはあまり起きない。交換はお互いに必要なものがあることが成立の条件であり、近代復興では、土地がその一方にあったわけであるが、人口減少時代においては被災地の土地を誰も欲しがらない。

そして何よりも、非営利復興では、土地は復活したとしても「見えない所得」の中に入り、二度と市場に顕在化してこない。そこで人々はどうのように復興のモチベーションや目的を見いだすのだろうか？ 土地にかわって人々の間の活き活きとした交換を媒介するものは何なのか？ 交換を通じて「貨幣による所得」と「見えない所得」をどう修復していくことが出来るのだろうか？

筆者が復興を支援しているある地区での経験を紹介しながらヒントを探っていこう。R地区は人口2000人ほどの小さな漁師町であるが、11ある浜のうち、死者が出たのは2つの浜だけである。1933年の昭和三陸大津波のあと、R地区の集落はすべて現地の人たちが復興地とよぶ場所へと集団で、あるいは個別で高所移転し、その後2つの浜にだけ低平地に住宅が残る被害にあってしまった。9つの浜の人達の意志が特別に強かったわけではない。強い必要がないから低平地に住宅をつくらなかっただけのことであり、彼らの土地は経済成長のエンジンになったことも一度もない。彼らは80年の間、土地抜きで経済を廻し、災害で誰も亡くならない空間をつくりあげてきた。つまり、9つの浜における昭和三陸大津波からの復興、1933年から2011年までの回復や成長の過程こそが非営利復興であると言える。

彼らはどういう人たちなのだろうか。予断では、漁師とは博打打のような気質で、荒っぽい人たちではないかと考えていた。しかし、実際の気質は、経営者、勤め人、農民、狩猟民、技術者といった気質が高度に複合している。集団ではなく、個人の気質がこれだけ複合しているということである。

この気質はどこからうまれているのだろうか。まず産業を見ると、R地区の漁業は養殖、定置網^g、沖釣り、あわび漁の組み合わせであるが、漁は湾内の容量を見極めながら行っており、そこで獲れる魚、その利益で生活できる人数もはつきりしている。その容量のもと、養殖漁業は速いサイクルでイノベーションを重ねてきており、これから先もイノベーションが起りそうである。そのイノベーションを支えているのは、集落の中の強い人間関係^h。ソーシャルキャピタルである。

^(注6) インフラをみると、戦後に整備された道路や防潮堤などが地区の安全性を向上するとともに、都市部との関係を強くし、集落の人たちが都市を使うことを可能にして来た。このことは、漁業だけでは食べていけない人が、都市部において様々な仕事を得て、それらを漁業と組み合わせることを可能にしている。

こうした産業の進化、仕事の安定を得て、彼らは資本を蓄積し、大小の空間を住宅と漁港の間につくり出して来た。その中には、昭和三陸大津波から実に70年かけて資本を蓄積し、低地から高所に移転した住宅もある。

このように、ソーシャルキャピタルは新しい仕事を生み出し、仕事が資本を蓄積し、資本が空間に再投資される、というふうな空間とソーシャルキャピタルと資本のよき循環が、80年かけて形成されてきた。そして9つの集落においてこれらはお互いうまく機能し、だれも亡くならない空間をつくりあげてきた。このような、海を中心を持ち、様々な手段を組み合わせるから資源を取り出し、それを外部に売ることによって富を得て、自身の船々^ク家を回復させていく、それがこの地域の制度から生まれた非営利復興である。こうしたことをキョウケン化^クし、超長期間の非営利復興に埋め込んでゆけばよい。

(饗庭伸『都市をたたむ——人口減少時代をデザインする都市計画』より)

(注1) ガバナンス —— 統治。

(注2) ダウンサイジング —— 規模を小さくすること。

(注3) アドバンテージ —— 優位性。

(注4) ソーシャルキャピタル —— 社会・地域における人々の信頼関係や結びつき。

(注5) バラック —— 経済的に困窮している人のための簡易住居。

(注6) インフラ —— インフラストラクチャーの略語。経済活動や社会生活の基盤となる施設。

問一 「沢山」^Aの読みとして、正しいものを次の中から一つ選べ。 1

- 1 たざん 2 さざん 3 たくさん 4 さわやま 5 さわさん 6 たんざん

問二 「既に」^Bとあるが、「既に」を用いた慣用句として、**正しくないもの**を次の中から一つ選べ。 2

- 1 既成事実 2 既往症 3 既婚者 4 皆既食 5 南回既線 6 既知数

問三 「顕在」^Cの反対を意味する語として、最も適当と思われるものを次の中から一つ選べ。 3

- 1 潜在 2 混在 3 点在 4 偏在 5 介在 6 外在

問四 「媒介」^Dの言い換えとして、最も適当と思われるものを次の中から一つ選べ。 4

- 1 メディア 2 メカニズム 3 メガロポリス
4 メシア 5 メタファー 6 メルクマール

問五 「蓄積」^Eとあるが、「蓄」という漢字を用いないものを次の中から一つ選べ。 5

- 1 蓄財 2 貯蓄 3 蓄縮 4 蓄蔵 5 蓄電 6 蓄産

問六 「予断」^Fの意味として、最も適当と思われるものを次の中から一つ選べ。 6

- 1 予想 2 予後 3 予算 4 予審 5 与奪 6 予定

問七

「定置網」^Gとあるが、「網」を用いた語句や慣用句として正しくないものを次の中から一つ選べ。

7

- 1 網無くて淵^{ふち}をのぞく
- 2 天網恢恢^{かいかい}疎にして漏らさず
- 3 網を張る
- 4 あつけない網切れ
- 5 一網打尽
- 6 鉄道網

問八

「ダツキヤク」^ア「アンカ」^エ「チンタイ」^オ「アツパク」^カ「キヨウケン」^クの漢字と、同じ漢字を含むものを、次の中から一つ選べ。

8

12

- | | | | |
|---|----------------|---------------|---------------|
| ア | 1 キヤクシツ乗務員 | 2 カクシキを重んじる | 3 ギヤクコウカを招く |
| | 4 キヤツコウを浴びる | 5 カンカクをせばめる | 6 申請をキヤツカする |
| エ | 1 アンゴウを解読する | 2 部屋をアンナイする | 3 アンシン立命 |
| | 4 オントウな評価 | 5 全国アンギャする | 6 オンジョウをかける |
| オ | 1 セイタイケイと食物連鎖 | 2 祭りでタイコを叩く | 3 ケイタイ電話を充電する |
| | 4 奨学金のタイヨ | 5 容疑者がタイホされる | 6 タイクツな日曜日 |
| カ | 1 ハクリヨクのある映画 | 2 ハクヒヨウを踏む | 3 ハクハツを染め上げる |
| | 4 ハクライ品を好む | 5 サンパク四日の旅行 | 6 ハクアイの精神 |
| ク | 1 彼の態度にキヨウ冷めした | 2 キヨウザイの冊子を配る | 3 オンキヨウ設備 |
| | 4 キヨウリキコでパンを焼く | 5 キヨウリヨク関係を築く | 6 ギヤツキヨウに打ち勝つ |

問九

「復興で戻るべき東北がそもそも^イどうい^イう社会であったか」とあるが、その「社会」の説明として、**正しくないもの**を次の中から一つ選べ。

13

- 1 1人あたりの県民所得220万円は、年間220万円を稼いで支出し、それでも豊かな生活を行っていると示す。
- 2 東京都民と東北県民の所得の170万円の差は、東北では170万円分は貨幣を使用せず暮らしていけると示す。
- 3 1人あたりの県民所得220万円は、貨幣の所得から見れば貧困地帯なのかもしれないが、見えない所得を多く持つ豊かな地域ともいえる。
- 4 東京都民と東北県民の所得の170万円の差は、つながりを持った人たちの間で顕在化しなくなったサービスや物品の費用の合計である。
- 5 1人あたりの県民所得220万円が、払わねばならない税金の負担の軽さにつながり、暮らすうえでのアドバンテージになっている。
- 6 東京都民と東北県民の所得の差は、持ち家であることや、食品の一部を自宅で栽培したり親戚からもらったり自宅で野菜を育てるということでカバーされている。

問十

「見えない所得」の復活」とあるが、そのために必要な施策の説明として正しくないものを次の中から一つ選べ。

14

- 1 食品の調達にあたって、スーパーを使わないような生活を回復する。
- 2 「見えない所得」でカバーされていた住居費を稼げる社会にする。
- 3 土地の売買によって空間と資本とソーシャルキャピタルの関係を回復する。
- 4 貨幣を使わないと回復出来ない住居に対する支出をなるべく圧縮する。
- 5 被災前の仕事を回復することによって、貨幣による所得を回復させる。
- 6 住宅の復活後、仕事の収穫で必要なものを少しずつ購入する経済に戻していく。

問十一

「非営利復興は都市拡大期の復興手法である」「区画整理^キ＋バラックモデル」では解くことが出来ない」とあるが、
それでは「非営利復興に有効なモデル」とはどういうものか。その説明として最も適切と思われるものを次の中から一つ選べ。

15

- 1 安全な土地とそうでない土地をはっきりと区分し、安全な土地の市場性をあげて活発な取引や金融機関の融資をうながす。
- 2 安全な土地とそうでない土地をはっきりと区分し、住民を安全な土地に集めて住まわせることによって経済を活性化させる。
- 3 土地を「見えない所得」から「見える所得」の形に変え、市場に顕在化させて復興のモチベーションにしていく。
- 4 土地を「見えない所得」から「見える所得」の形に変え、さらに新たなソーシャルキャピタルをつくりだしていく。
- 5 ソーシャルキャピタルが仕事を生み、仕事が資本を蓄積し、資本が空間に再投資される、というよき循環を形成する。
- 6 ソーシャルキャピタルが仕事を生み、仕事が資本を蓄積し、資本がソーシャルキャピタルに再投資される、というよき循環を形成する。

問十二 本文の内容に合致するものを、次の中から二つ選べ。

16

16

の欄に、二カ所マークすること

1 東日本大震災が起きた直後の筆者の仮説は「東北は実は豊かだったため、災害後も経済の復興は早いのではないか」というものであった。

2 東北の近代化しきれなかった部分は、人口減少時代に一足早く入りつつあった東北が、人口増加と都市成長とともにあった近代化の次の段階に入っていたとも捉えられる。

3 東京でも東北でも医療費や教育費はあまり変わらないと思われるので、県民所得の差はおそらく娯楽遊興費から生じている。

4 筆者が復興を支援しているR地区では、わずかな例を除き、土地抜きで経済を廻し災害で誰も亡くならない空間をつくりあげてきた。

5 貨幣による所得すら十分に確保できないまま「見えない所得」だった分の出費に苦しむ被災者は、福祉の枠組みで救済すべきである。

6 R地区の養殖漁業の速いサイクルのイノベーションを支えているのは、集落の外の強い人間関係⇨ソーシャルキャピタルである。

(二) 次の文章を読んで、後の問に答えよ。

感覚のヒエラルキー

公共の場で触覚がネガティブな印象を与えることと密接に関わっているのが、「感覚にはヒエラルキーがある」という伝統的な考え方です。つまり人間にあるとされる五つの感覚は、それぞれ対等なものではなく、優れたものと劣ったもの、価値の優劣があるというのです。この感覚の序列という今でも根強く残っている考え方について、少し補足しておきましょう。

五つのうちのもっとも「優れた」感覚は何か。ゴスウィサツのとおり、それは視覚です。時代による多少のヘンセンはありますが、視覚は基本的に「感覚の王」の座にクンリンしてきました。ただし、これは私たちが視覚からもっとも多くの情報を得ているということではなくて、視覚がその機能においてより「精神的」であるという意味です。事の真偽はさておき、見ることに認識することを結びつける考え方は洋の東西を問わず広く見られます。「Seeing is believing」や「百聞は一見に如かず」という言いまわしが象徴的です。

視覚に次いで高次の感覚は聴覚です。聴覚も精神的な活動と結びつけられます。「神のお告げ」と言われるように、私たちの日常的な領域を超えた、超越的な経験とも結びつきやすいのが聴覚の面白いところ。目が理性だとすれば、耳は魂といったところでしょうか。最近ではボーカロイドのような人工的な声に接する機会が増えています。二次元のキャラクターを見ても生身の人間とサツカクすることはありませんが、その声には、時として「魂」を感じてしまうのは聴覚ならではの特徴でしょう。

これら二つの感覚が圧倒的に優位な上位感覚で、これに嗅覚、味覚、触覚が続きます。「視覚／聴覚」と「嗅覚／味覚／触覚」という二つのカテゴリーを分ける基準は、対象に接触しているかどうかです。視覚や聴覚においては、知覚している対象、たとえば見ている本や聞いているピアノと、目あるいは耳は接触していません。器官と対象のあいだには距離があり、離れています。

それに対して、嗅覚や味覚や触覚においては、対象との物理的な接触が生じます。触覚はまさに対象に触ることによって生じますし、味覚においては舌が食べ物に触れます。嗅覚は微妙ですが、対象から発せられたリユウシ^カが化学的に作用していることを考えれば、広義の接触といえます。

いずれにせよ、伝統的な考え方に従えば、序列の最高位に視覚が、そして最低位に触覚が位置しているのです。触覚を重視する思想家もいましたが、その場合にも触覚はあくまで「視覚に対するアンチ^注」の地位しか与えられていませんでした。

教育とは、触る世界から見る世界へ移行させること

こうした考え方の真偽はさておき、現在の社会においても、それが強固に信じられていることは疑いようがありません。そのことは、教育の場面を考えれば明らかです。

私自身、母親に何度注意されたことでしょう。「ほら、触っちゃいけません！」なめたら汚いわよ！」幼い頃、私はガードレールの白い粉、電車の窓、机の下のホコリ、帽子のゴムひも……ありとあらゆるものを触り、味わっていた記憶があります。母親は具体的には衛生的な問題を心配して注意したのですが、そこで行われていたのは、まさに対象から自分の体を引きはがす作業でした。

子どもがもつとも触りたがる、もつともなめたがる対象といえは母親の体です。自分が母親になって実感しましたが、子どもの母親の体への執着はすさまじいものがあります。執着というより、二、三歳くらいまでは、母親の体を自分の体の延長だと思っているふしさえあります。母親と自分の境界線があいまいなのです。

これについてはひとつエピソードがあります。息子が二歳のとき、ジャムの瓶のふたが開かないといって私のところに持ってきました。分かったよ、と言って瓶を持ってふたを回し始めたのですが、すると目の前で見ていた息子まで、「うーん」と力み始めた。もちろん頭では、瓶を開けているのはお母さんだと分かっていたはずですが、身体的には、自分で瓶を開けているような感覚があったのではないかと思います。どんなミラクルを彼は信じていたのか、「気」とでも言うほかないも

のを、彼は母に送っていたのでしよう。

こうしたあいまいな連続状態から、目の力によって対象と自分を分断し、境界線をはっきりさせること、それが近代における「大人になる」ということです。低次の感覚から高次の感覚へ――。教育とは、まさに子どもを触る世界キから見る世界へ移行させることなのです。

点字は「触る」ものではなく「読む」もの

私としては、こうした価値のヒエラルキー説は本質的に誤りであると思います。それがさまざまな感覚に価値の序列を設けているから、ではありません。そもそも人間の感覚を五つに分けたり、見る働きを目の専売特許とみなしたりすること、それ自体が間違っているのではないかと思っています。

どういうことでしょうか。話はふたたび先ほどの方程式「点字＝触覚」に戻ります。この方程式こそ、「見えない人は特殊な触覚を持っている」「何でも触れるようにしてあげるのがいいのだ」といった先入観のもとになっているものでした。しかし、点字を純粹な触覚の働きとみなすのは、実はどうやら間違っているらしい。そのところを見ていきたいと思っています。

現在一般に使われている点字は、十九世紀前半にフランスの盲学校の先生ルイ・ブライユによって開発されました。ブライユ点字は横二×縦三の計六つの点から構成されていますが、これらの点はランダムに並んでいるわけではありません。そこには一定のルールがあります。つまりパターンがあるのです。しかもそのパターンが分かりやすいように、点を盛り上げる高さや点と点の間隔が人工的にデザインされている。この人工的にデザインされたパターンを認識することが、点字を理解することです。

しかし、点字以外のもの、たとえば先ほどあげたタオルの毛のようなものには、そうしたパターンはありません。製造工程において特定の製法にのっとって織られてはいても、人間が「読む」対象となるような分節やルールがそこには存在しない。肌触り、手触り、舌触り、見える人が通例触覚の対象として思い描いている対象はどれもアナログで切れ目がなく、点

字のようにデジタルな「単位」を持たないのです。しかも触覚は、同じ場所を何度も反復的に触りながら、ひとつの感触を長く味わおうとする。これは、意味を理解したらどんどん次へ進んでいく点字を触る行為とは全く異なっています。

そう、一言でいってしまえば、点字は「触る」ものではなく「読む」ものなのです。確かに点字は、その上に指を乗せ、その凹凸^{ウツ}を触覚によって感じていきます。しかしながら、そこで行っている作業は、もともと頭の中に持っているパターンと、いま指で触っている点の配置のパターンを照合^Fすることです。配置のパターンを把握して、「あ、この形は『ま』だな、次は『か』だな」と理解していく。

つまり見える人が、紙やスクリーンの上にある線や点を作るパターンを認識して、それを文字として理解し、そこから意味を構成していくのと全く同じなのです。子どもが書いた「あ」も、書の達人が書いた「あ」も、線の配置パターンが同じであれば同じ文字として理解されます。このパターンを認識することが「読む」なのです。タオルの質感を触り分けることは、子どもの文字と書家の文字の質的な違いを感じるようなことです。子どもと書家なら違いは分かりやすいですが、微妙な違いになってくると、それは筆跡鑑定というプロの技術の領域です。点字が読めることと、タオルの質感の微妙な違いが分かることは、別の能力なのです。

点字を理解することは、同じ指を使う行為だとしてもタオルの毛を触ることからは遥^{はる}かに遠く、むしろ目を使って墨字を読むことのほうにずっと近いのです。この点に関しては、生理学の領域で面白い研究が進んでいます。

生理学研究所の定藤規弘^{さだとうのりひろ}教授らによれば、見えない人が点字を読むときには、脳の視覚をつかさどる部分、すなわち視覚皮質野が発火しているのだそうです。つまり脳は「見るための場所」で点字の情報処理を行っているわけです。脳の可塑性な性格は近年注目を集めています。見えない人では視覚的な情報を処理する必要がなくなるため、視覚野が視覚以外の情報処理のために転用されるようになるのだそうです。

(伊藤亜紗『目の見えない人は世界をどう見ているのか』光文社)

(注) アンチ —— 対立存在・反対者。

問一

「ネガタイプ」^Aの反対を意味する語として、最も適当と思われるものを次の中から一つ選べ。

- 1 アクティブ
- 2 エグゼクティブ
- 3 クリエイティブ
- 4 センシティブ
- 5 ナイーブ
- 6 ポジティブ

17

問二

「印象」^Bとあるが、「象」を用いた四字熟語として、**正しくないもの**を次の中から一つ選べ。

- 1 有象無象
- 2 偶象崇拜
- 3 象形文字
- 4 心象風景
- 5 森羅万象
- 6 異常気象

18

問三

「微妙」^Cとあるが、熟語の中で「妙」の用法が他と異なるものを次の中から一つ選べ。

- 1 精妙
- 2 絶妙
- 3 美妙
- 4 妙案
- 5 妙技
- 6 妙齡

19

問四

「広義」^Dの反対を意味する語として、最も適当と思われるものを次の中から一つ選べ。

- 1 意義
- 2 異義
- 3 一義
- 4 狭義
- 5 多義
- 6 大義

20

問五

「延長」^Eとあるが、「延」という漢字を用いる例として、正しいものを次の中から一つ選べ。

- 1 延滞金
- 2 延を切る
- 3 延熟の境地
- 4 延芸家
- 5 延護する
- 6 延出力

21

問六

「照合」^Fとあるが、「照」を用いた語句として、**正しくないもの**を次の中から一つ選べ。

- 1 身元を照会する
- 2 照準を合わせる
- 3 日照権がある
- 4 照励する
- 5 照明器具
- 6 対照的な色

22

問七

「スイ^アサツ」「ヘン^イセン」「クン^ウリン」「サツ^エカク」「リュウ^カウシ」の漢字と、同じ漢字を含むものを、次の中から一つ選べ。

23

27

- | | | | |
|---|---------------|--------------|---------------|
| ア | 1 役所のスイトウ係 | 2 スイリ小説 | 3 スイソウ楽部 |
| | 4 スイミン不足 | 5 ジスイ生活 | 6 職務のスイコウ |
| イ | 1 人権センゲン | 2 飛行機がセンカイする | 3 ジツセン的な教え |
| | 4 平安セント | 5 商品のセンベツ | 6 シンセンな野菜 |
| ウ | 1 リンジ列車 | 2 シャリンの交換 | 3 リンジンとの交流 |
| | 4 シンリン破壊 | 5 リンリと道徳 | 6 フウリンの音色 |
| エ | 1 入力してケンサクする | 2 サクリヤクを練る | 3 人民をサクシユする |
| | 4 経費のサクゲン | 5 サツコンの風潮 | 6 時代サクゴ |
| カ | 1 キョウリュウウの時代 | 2 リユウカ水素 | 3 ゼンリュウウフンのパン |
| | 4 リユウゲンに惑わされる | 5 内部リュウホを貯める | 6 センリュウウを投稿する |

問八

「凹凸」の読みとして、正しいものを次の中から一つ選べ。

28

- | | | |
|--------|--------|--------|
| 1 おうとつ | 2 きぎぎぎ | 3 たにやま |
| 4 だんだん | 5 でこぼこ | 6 めりはり |

問九

「これら二つの感覚が圧倒的に優位な上位感覚で」とあるが、とりわけ視覚が「上位感覚」であると考えられている理由の説明として最も適当と思われるものを次の中から一つ選べ。 29

- 1 「感覚にはヒエラルキーがある」という伝統的な考え方があるから。
- 2 「感覚の王」である視覚が私たちにもっとも多くの情報をもたらすから。
- 3 視覚を認識と結びつけ「精神的」であるとみなす考え方が広く見られるから。
- 4 「神のお告げ」と言われるように、聴覚は宗教的な経験と結びつきやすいから。
- 5 対象との物理的な接触は人間を肉体的に傷つけるおそれがあるから。
- 6 触覚はあくまで「視覚に対するアンチ」の地位しか与えられていないから。

問十

「教育とは、まさに子どもを触る世界から見る世界へ移行させること」とあるが、これはどういうことか。その説明として最も適当と思われるものを次の中から一つ選べ。 30

- 1 教育とは、体を汚す感覚よりも、衛生的な感覚を使うようにしつけることだということ。
- 2 教育とは、母親の体への執着心を自覚させ、自ら罰する習慣をつけることだということ。
- 3 教育とは、「気」を送るのではなく、理性で世界と関わるようにしつけることだということ。
- 4 教育とは、あいまいな連続状態から、対象と自分を分断し境界線の明確化を促すものだという事。
- 5 教育とは、「大人になる」方法を、現実社会の人間関係の中で学ばせるものだという事。
- 6 教育とは、低次の感覚から高次の感覚へと、子どもの自主性を重んじつつ誘導するものだという事。

問十一

「点字は「触る」ものではなく「読む」もの」とあるが、なぜそういえるのか。その理由の説明として正しくないものを次の中から一つ選べ。

31

- 1 同じ場所を反復的に触りながらひとつの感触を長く味わおうとする触覚とちがって、点字を触る行為は意味を理解したらどんどん次へ進んでいくから。
- 2 点字の凹凸を触覚によって感じていく作業は、もともと頭の中を持っているパターンと指で触っている点の配置のパターンを照合することだから。
- 3 点字を理解することは、見える人が紙やスクリーンの上にある線や点を作るパターンを認識して文字として理解し意味を構成していくプロセスと同じだから。
- 4 図形的な配置パターンが同じであれば同じ文字として理解されるという点は、文字を読むことと点字を読むことの共通点だから。
- 5 点字を理解することは、同じ指を使う行為として、タオルの毛を触ってタオルの質感を触り分けることと同じプロセスといえるから。
- 6 生理学研究によれば、見えない人が点字を読むときには、脳の視覚をつかさどる部分すなわち視覚皮質野で情報処理を行っているから。

問十二 本文の内容に合致するものを、次の中から二つ選べ。

32

32

の欄に、二カ所マークすること。

1 「Seeing is believing」や「百聞は一見に如かず」という言いまわしが象徴するように、聴覚と認識を結びつける考え方は洋の東西を問わず広く見られる。

2 最近のボーカロイドのような人工的な声にさえ時として「魂」を感じてしまうのは、聴覚が「神のお告げ」を受け取る唯一の感覚だからである。

3 二、三歳くらいまでの子どもは、母親の体へ執着しすぎるあまり、「気」とでも言うほかないものによって母親を自分の思い通りに操作しようとする。

4 筆者は、そもそも人間の感覚を五つに分けたり、見る動きを目の専売特許とみなしたりすること、それ自体が誤りだと考えている。

5 現在一般に使われている点字の点はランダムに並んでいるので、点を盛り上げる高さや点と点の間隔を敏感な触覚によって理解する必要がある。

6 タオルの毛には点字のような分節やルールが存在しないので、触覚の対象としてはアナログで切れ目がなく、人間が「読む」対象とはならない。

2020年度 武蔵野美術大学 造形構想学部 一般選抜 学部統一方式
国語 解答例

[一]

問一	1	③
問二	2	⑤
問三	3	①
問四	4	①
問五	5	⑥
問六	6	①
問七	7	④
問八	ア 8	⑥
	エ 9	③
	オ 10	④
	カ 11	①
	ク 12	②
問九	13	⑤
問十	14	③
問十一	15	⑤
問十二	16	② ④

[二]

問一	17	⑥
問二	18	②
問三	19	⑥
問四	20	④
問五	21	①
問六	22	④
問七	ア 23	②
	イ 24	④
	ウ 25	①
	エ 26	⑥
	カ 27	③
問八	28	①
問九	29	③
問十	30	④
問十一	31	⑤
問十二	32	④ ⑥